



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	広島県による観光戦略の目指すところ：冒頭のことば
Author(s)	湯崎, 英彦
Relation	尾道型デスティネーション・マネジメントってなに? : 多様な地域遺産を生かす観光まちづくり戦略 = What is Onomichi type destination management? : Strategy of tourism for social Innovation using heritage diversity
Citation	CATS 叢書, 10, 7-8
Issue Date	2016-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/61299
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS10_2yuzaki.pdf



冒頭のことば

湯崎 英彦

広島県知事

広島県では、本県の観光地が国内外から訪れる多くの人々に感動と癒しを与え、県民にとっても世界に誇れる観光地となるとともに、観光を本県経済の成長を支える産業の一つとして発展させることが重要であるとの認識のもと、平成 25 年に「ひろしま観光立県推進基本計画」（以下、「立県計画」）を定め、観光振興施策を推進しているところです。

立県計画では、厳島神社（宮島）と原爆ドームの 2 つの世界遺産や、瀬戸内の多島美、山容美しい中国山地など本県の持つ強みを活かし、リピーターや外国人観光客等の増加による国内外からの観光交流人口の増加など、立県計画最終年である平成 29 年の目標値を設定しました。目標達成に向けては、県内の観光素材を活かした魅力ある観光地づくりに重点を置き、集客力強化の対策と周遊地点の増加に取り組むとともに、ターゲットと観光素材を絞り込んだ戦略的なプロモーションを実施するなど、4 つの施策の柱によって誘客を促進していくことを明確にしました（図 1 参照）。

これらの取組の結果、広島県の総観光客数は、過去最高だった平成 24 年の記録を 25 年、26 年と更新し続け、平成 26 年は、6,181 万人の総観光客数を記録しました。外国人観光客についても同様で、平成 26 年には初めて 100 万人の大台を超える 104 万人の外国人観光客の方々に来訪して頂きました。特に訪日外国人観光客については、円安やアジア諸国の経済成長、国の大規模な海外プロモーションの効果などにより大幅に増加に転じており、平成 32 年（2020 年）の東京オリンピック・パラリンピックまでは継続的に訪日外国人観光客が増加していくものと見込まれています。

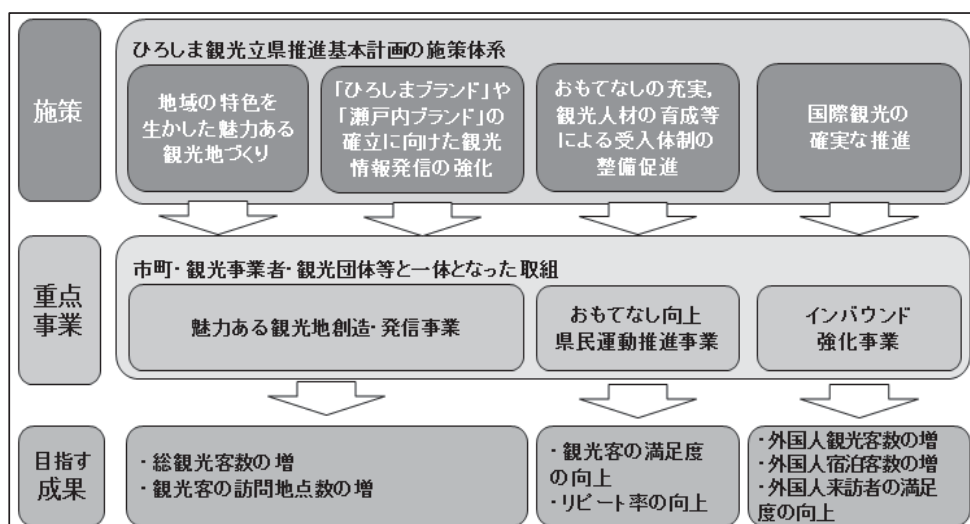


図 1 ひろしま観光立県推進基本計画の考え方

総観光客数の着実な増加や訪日外国人観光客数の増加といった本県観光を取り巻く情勢の変化を踏まえ、平成 27 年 10 月に、総合計画「ひろしま未来チャレンジビジョン」を改定し、オリンピック開催年でもある平成 32 年（2020 年）を目標年とした新たな目標値の設定を行いました（図 2 参照）。

観光振興の目的は、観光消費額の拡大による地域経済の活性化であり、観光消費額は「観光客数×観光消費額単価」であることから、今後は、観光客数の増加とともに消費額増加の視点を持ち、マーケティング手法を活用した戦略的な施策展開を図るとともに、綿密な PDCA を行うことで確実に目標達成に繋がっていきたいと考えています。

また、平成 28 年 4 月には、広島県ほか瀬戸内エリア 6 県（兵庫県、岡山県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県）で構成する一般社団法人せとうち観光推進機構を立ち上げ、民間事業者や金融機関と連携して、瀬戸内全体のプロモーションや需要の創出と、瀬戸内ブランドのプロダクト（観光関連サービス等）開発に取り組んでいく予定としています。こうした広域連携の取組も活用しつつ、広島県の魅力を存分に発揮した観光施策を展開し、本県観光の振興を図って参りたいと考えています。



図 2 広島県総合計画「ひろしま未来チャレンジビジョン」